



ふるさと石岡映像コンテスト 受賞作品をみよう！

平成29年から30年にかけて石岡市が実施した「ふるさと石岡映像コンテスト」では、全14作品の応募の中から、映像制作の専門家などで構成された審査会による厳正な審査により、下段の4作品が受賞しました。

本コンテストは、作品を通じて「日本人の心」や「日本のふるさと」の素晴らしさを広く発信し、その価値について世代を超えて共有し、残し、伝えていくことを目的としています。石岡の「ふるさと」を多くの人に感じてもらうよう市役所などで上映会を行ってきたほか、中央図書館でDVDの貸出を行うなど、活用を増やしています。

そこで今回、活用方法のひとつとして、市内小中学生を対象とした「ふるさと石岡映像コンテスト感想文コンクール」を開催します。

ふるさと石岡映像コンテスト
感想文コンクール応募方法

1. 作品を見る

① 中央図書館でDVDを借りて作品を見る。

② 上映会に参加して作品を見る。
日時／8月16日(金)

① 午前10時～② 午後2時
場所／市役所本庁舎
201会議室

2. 感想文を書く

市販の原稿用紙に、タイトル・学校名・学年・氏名を書き、考えたこと、感じたことなど自由に。

小学校低学年の部

原稿用紙400字以内

小学校中学年の部

小学校高学年の部

中学生の部

原稿用紙800字以内

3. 応募する

各小中学校に夏休み後に提出してください。

図書広聴課

Tel 23・7275



《作品紹介と上映会参加者の感想》

Ishioka Heritage (審査委員特別賞・石岡市観光協会会長賞)

制作者：仲野 哲郎 氏 (石岡市)



・私は生まれた時から石岡人で、石岡は何もない所と思っていたが、もっともっと石岡を自慢したいと思った。
・外から来た人のほうが石岡への探求心が豊富。小さい子でもとても分かりやすい作品にしてあり、素晴らしく感動した。

獅子の道しるべ (最優秀作品賞)

制作者：山本 尚志 氏 (東京都)



・2つの物語が短い中で丁寧に描かれていて心に沁みた。見慣れた風景が映し出されているのもとてもうれしく楽しめた。また観たいと思える作品。
・ストーリーが素晴らしい。石岡の各地、獅子舞やお祭りについてなど、石岡の魅力が伝わる作品だった。

(写真説明)

- 1 茅葺き屋根
- 2 看板建築
- 3 鳴滝
- 4 真家のみたま踊り
- 5 関川地区の大人形



さあ、見つけに行こう
まだ知らない町の姿を求めて

子どももお年寄りも踊る

真家地区の念仏踊り

真家地区では、8月15日に、地区の子どもからお年寄りまでが地区内の寺や新盆の家を回って、先祖の供養のために念仏踊りを行っています。これは「真家みたまおどり」と呼ばれ、ルーツは平安時代末期。奈良の長谷寺の高僧が仏教を広めようと真家の地で新仏ができたときに、老若男女を寺の庭に集め、三日三晩、夜を徹して踊り、供養したのが始まりと言われています。
日時／8月15日(日)午前8時
(明圓寺からスタート)

一度見たら忘れられない
関川地区の

ユニークな大人形

霞ヶ浦のそばの関川地区では、8月16日に全身を杉の葉でくるまれた大人形を作りまです。天明の大飢饉後、疫病などの災厄が入ってこないよう

に作ったのが始まりといわれています。その顔は力強い眉と、キツと結ばれた口、そして睨みをきかせた大きな目で、悪いものが入ってこないように見張っているのです。毎年8月に作り替えられ、1年間の務めを終えます。
日時／8月16日(金)午後3時頃
から(場所はお問い合わせください)。

伝統行事があることは、
それを守ってきた人が
いるということ

大きく変わる時代の中で、その形態を少しずつ変化させることで、これらの伝統行事は残ってきました。伝統行事に込められた意味とは？それを守る人の気持ちとは？皆さんも、まだ知らない石岡を見つけないませんか？

図秘書広聴課

Tel 23・7275

食、つなぐ想い

—生産者の声—茨城県石岡市(学生賞)
制作者：近松 栄実 氏 (東京都)



- ・消費者目線で食を生産する強い意欲を知り、農業畜産業の大切さを改めて感じた。
- ・映像がすべて美しい。出演された農家・牧場の人々も素敵だった。
- ・食の安全を一番に考え消費者に届けている姿勢に感動。

土蜘蛛の復活(黒坂命を召還せよ!)(奨励賞)

制作者：石岡第二高等学校
「歴史は物語だ！」チーム



- ・おもしろさの中で石岡の歴史を知ることができて良かった。学校でも放映すると良いと思う。
- ・高校生が地元に興味を持って、参加したことが有意義なことだと思う。
- ・高校生の頑張りが伝わってきた。